

戦国武将に学ぶ

「真田丸」や「ブラタモリ」などのTV番組との相乗効果もあり、小田原城天守閣のリニューアルで小田原駅前を中心に観光のお客が増えています。ありがたいことです。小田原自体の集客力の潜在力を感じるいいニュースだと思います。同時に明らかになったことは、5月に当所が発表した「小田原・箱根の観光ビジョン」にも反省を込めて書きましたが、ほとんど手付かずと言っていい小田原の観光地としての整備が急がれるということです。

そんな中、それぞれ北條と真田のゆかりの地、高野山と信州上田へ行く機会を得ました。高野山へは当所の役員と小田原市観光協会の有志と一緒に、22万という大群を率いた秀吉に責められ降伏し高野山に蟄居を命じられた五代氏直公はじめ北條五氏の墓所参りを含めそのゆかりの地を訪ねるという趣旨で、そして、上田へは、私ごとで恐縮ですが、私の会社の社員旅行で。それぞれの旅の土産話はまた別の機会に譲るとして、今日は、その旅を通じて図らずも体感することになった戦国武将の構想力と行動力についてお話します。

交通機関も高速道路も自動車もなく、電話も携帯もメールもなく、そもそも正確な地図も航空写真もましてやドローンもないあの時代に、天下を取ると考え、そのため戦(いくさ)や諜報活動の作戦を立て実行してきた戦国武将たちの構想力と行動力にはただただ脱帽するのみです。例えば、総構えで有名な小田原城(天守閣だけでなく)の築城は、地形を正確に読み取り、自然の起伏と地質を上手に活かした絶妙の配置になっていますが、北條はどうやったのでしょうか。例えば、時の最大権力である豊臣、徳川との微妙な距離感を図りながら、真田親子と兄弟は大阪、上田、そして、天下分け目の関ヶ原の合戦後に親子で蟄居させられていた高野山・九度山との間のあの数百キロに及ぶ距離をどう克服したのでしょうか。

世の中を大きく捉える大局観と共に、情報の少ない中で時代の流れを読む先見性、そして、リーダー自ら動く行動力と…。400年後の私たちは一体進化したと言えるのだろうかと考え込んでしまいました。

振り返って、わがまちのまちづくりのこと。今、私たちがしている議論は、スケールが小さい、近視眼的、さらに単品料理だなと感じます。ホールにせよ、お城通りの再開発にせよ、その施設だけを取り上げて、いいとか悪いとか、必要だとか要らないとか…、全く不毛の議論だと思います。それらのハードがどうつながって、人が回遊し、お金が廻っていくのか、そして、次代に何を残すのかというビジョンが見えません。小田原全体を観て、どういうまちにするか構想して、それを誰でも分かる画に描き、実現に向かってどういう順番で具体的にどう動くかを示すことが必要だと思います。

今年の会員満足度調査でも会員さんから期待されていることの筆頭であることが明らかになった「まちづくりの推進」について、自由な発想で責任ある意見を具体的に出していくことが当所の使命だと改めて感じたいです。